参考資料4

「第４次吹田市地域福祉計画」
進捗管理シート（令和７年度末時点）

■対象室課一覧

シートNO.	施策	対象室課
1	自治会加入率	市民自治推進室
2	小地域ネットワーク活動の延べ参加者数	福祉総務室
3	高齢者生きがい活動センターの利用者数	高齢福祉室
4	障がい者サービスボランティア協力者数	中央図書館
5	青少年指導者講習会の参加者数	青少年室
6	認知症サポーターの養成者数（累計）	高齢福祉室
7	障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	障がい福祉室
8	成年後見制度の認知度	福祉総務室
9	日常生活自立支援事業利用者数	福祉総務室
10	地域包括支援センターの認知度	高齢福祉室
11	吹田市社会福祉協議会の認知度	福祉総務室
12	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の（延べ）相談対処回数	福祉総務室
13	自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	危機管理室
14	災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	福祉総務室
15	民生委員・児童委員の人数	福祉総務室
16	単位高齢クラブ数	高齢福祉室
17	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	福祉総務室
18	ふれあい交流サロン設置数	高齢福祉室
19	こどもプラザ事業実施回数	青少年室
20	貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	総合福祉会館
21	地域密着型サービスの整備箇所数	高齢福祉室
22	障がい福祉サービスの利用者数等	障がい福祉室
23	留守家庭児童育成室入室児童数	放課後子ども育成室
24	生活習慣改善するつもりはない人の割合	健康まちづくり室
25	各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	学校教育室
26	移動経路のバリアフリー化率	道路室
27	JOBナビすいたの利用者数	地域経済振興室
28	「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	地域経済振興室

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.1

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】　市民自治推進室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
自治会加入率	50.1%	44.8%	43.4%	41.7%	40.7%	60%（2028年度）

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○市HPで自治会加入の申込みを受付。 ○市HP上に各自治会の活動内容等を掲載できるスペースを確保し、情報発信の支援を行った。 ○自治会加入についてのちらしを令和3年度にリニューアルし、転入者へ配布。また、保育施設や商業施設に配架。ちらしには、市HP上の加入申込フォームにアクセスするQRコードを掲載。 ○自治会活動支援の一環として、自治会活動に役立つSNS入門講座を開催（令和3年度、4年度に実施）。 ○令和2年度に新設した自治会加入促進等活動補助金の補助対象事業を令和7年度から拡大し、自治会加入率向上のための支援を拡充した。令和7年度の交付実績は18団体。
令和8年度以降の取組予定	○令和7年度末までの取組を継続する。 ○自治会活動支援の一環として、自治会集会施設整備等活動補助金を拡充し、自治会所有の掲示板の新設、更新及び修繕する事業も補助対象とし、自治会外へも含めた情報発信を支援することで、自治会活動の活性化を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	C	C	自治会活動支援の取組の強化を図っているが、自治会加入率の減少は継続している。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.2

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
小地域ネットワーク活動の延べ参加者数	84,162人	46,503人	64,047人	66,270人	64,952人	86,000人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○重層的支援体制整備事業の実施に伴い、小地域ネットワーク活動における見守りや支え合いの取り組みを推進し、地域と支援機関が連携した包括的な支援体制の整備に取り組んだ。 ○地区福祉委員会の活動においてはCSWが地区福祉委員会に対して以下の働きかけを行った。 ・様々な属性の住民が参加できるサロン活動の実施に向けて取り組んだ。 ・ふれあい昼食会に、より多くの住民が参加してもらえるよう、周知方法などについて協議する機会を設けるなど各地区の状況に応じた検討を行った。 ・子育てサロンを実施する地区では、より多くの親子に参加してもらえるようチラシの作成等について助言や情報提供を行った。
令和8年度以降の取組予定	○地区福祉委員会をはじめ、民生委員・児童委員や自治会、その他諸団体等と情報共有をしながら、様々な人が交流できる居場所づくりを進めていく。 ○重層的支援体制整備事業の実施に伴い、吹田市社会福祉協議会に配置されているCSWを中心に複雑化・複合化した課題を抱える世帯の早期発見・見守り・支援につながる地域づくりに努めていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	住民同士の交流の希薄化や見守り機能の低下が見受けられ、孤立・孤独を抱える高齢者や障がい者などが増加傾向にある中、CSWが地域福祉活動の立ち上げや再開に係る働きかけを行うなど、重層的支援体制整備事業も踏まえ、より一層の地域住民同士のつながり作りに取り組んだ。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.3

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
高齢者生きがい活動センターの利用者数	50,696人	46,566人	45,673人	46,421人	49,532人	53,410人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○新型コロナウイルス感染防止策による一時的に休館したが、令和4年度以降については、感染症対策を講じながら、開館を継続した。年間延利用者数は昨年度に比べ3,111人増、1日の平均利用者数は10人増と増加傾向にあり、コロナ禍前と同程度まで回復しつつあるが、目標値達成のペースには至っていない。 ○会議室や交流スペースの提供の他、健康・教養・世代間交流に資するさまざまな講座を実施しており、新規利用者の獲得や施設利用の定着に繋げている。講座メニューについては毎年見直しを図り、高齢者のニーズに素早く対応することで、利用促進、施設の活性化に努めている。その結果、講座等事業の参加者数について、昨年度比で主催事業は295人増、自主事業は549人増となり、特に自主事業については、参加者が過去5年間で最多となった。
令和8年度以降の取組予定	○今後も引き続き、講座内容や広報の見直しなど安心して生きがいづくりの活動をしていただけるよう改善・工夫を重ねていくことで、利用者数の増加に努めていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	利用者ニーズを的確に捉え、サービスや講座の内容を充実させたことで、年間利用者数の回復や講座等事業の参加者数の増加につながったため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.4

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】　中央図書館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
障がい者サービスボランティア協力者数	215人	186人	189人	199人	204人	250人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座　10回　のべ47名参加 ○音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座　11回　のべ50名参加 ○デイジー図書製作講座　6回　のべ36名参加 ○点訳ボランティア養成講座（基礎コース）　10回　のべ20名参加 ○音訳・対面朗読ボランティア養成講座修了者　5名 ○さわる絵本づくりを楽しもう講座　3回　のべ45名参加
令和8年度以降の取組予定	○令和8年度は下記4講座を実施予定。 音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座　10回 音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座　10回 デイジー図書製作講座　6回 点訳ボランティア養成講座（実践コース）　10回

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	令和7年度については、ボランティア養成講座を予定通り実施できた。ボランティアの高齢化に伴い、今後もボランティアの減員が予想されるため、数値目標の達成は、厳しい状況にある。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.5

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】　青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
青少年指導者講習会の参加者数	244人	203人	161人	294人	243人	350人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○これから地域のボランティアを目指す方々に基礎的な知識を身につけていただくため、また既にボランティアとして活動されている方々のスキルアップのため、令和7年度は、「闇バイト」「発達症を知ろう」「安心なインターネットSNS利活用」等、現在の青少年を取り巻く課題をテーマとして、指導者講習会を開催した。 ＜令和6年度実績＞ 延べ実施回数7回、延べ参加者294人、動画配信による動画視聴者回数46回 ＜令和7年度実績＞ 延べ実施回数7回、延べ参加者243人、動画配信による動画視聴者回数56回 今後、より多くの方が興味を持ち、さらに受講者が増えるような講習テーマ作りや参加しやすくなる受講方法の構築が必要と考える。
令和8年度以降の取組予定	○引き続き、地域の幅広い世代や分野の方々の協力を得られるよう講習会を開催するとともに、より多くの方が参加できるよう、オンライン受講やアーカイブ配信など多様な受講方法を取り入れながら、指導者育成を進める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	年間受講者数が目標に達せず、昨年度実績値を下回ったが、オンライン受講等の取組は進んでいるため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.6

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
認知症サポーターの養成者数（累計）	24,390人	28,386人	29,464人	31,155人	32,786人	37,466人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○「認知症サポーター養成講座」を、市民、大学生、小学生、市職員、医療従事者や民間企業の従事者向けに参集やオンライン形式で開催した。平日昼間以外にも、土日や夜間の時間帯も設け幅広い年齢層に受講してもらえた。 ○地域ネットワーク構築に向けて認知症サポーターステップアップ講座を開催した。令和5年度に認知症の人や家族のニーズを認知症サポーターや多職種の支援者とつなぐ仕組みである「チームオレンジ」の立ちあげが始まり、令和7年度末までに4か所が立ち上がった。 ○9月の認知症月間において、江坂図書館、千里市民センターロビーで啓発展示を実施。 ○「声かけ見守り訓練マニュアル」を令和6年4月に改訂し、令和6年度は1地域に実施。令和7年度の実施はなかった。 ○認知症当事者、その家族のための講演会、教室、相談会を6ブロックで実施。介助者向けにスキルアップ研修を実施した。
令和8年度以降の取組予定	○「認知症サポーター養成講座」や認知症地域サポートの周知を積極的に行う。 ○認知症地域推進員、地域包括支援センター等と連携し、「チームオレンジ」の立ち上げの拡大を目指す。 ○認知症サポーターステップアップ講座やキャラバン・メイト全体研修（令和8年度）を開催し、認知症支援に関わる方のモチベーション向上、スキルアップを図る。 ○9月の認知症月間において認知症に関する普及啓発等を行う。 ○認知症の当事者、家族の支援を行うため、講演会、教室、相談会を実施する。 ○認知症当事者インタビューを実施予定

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	○「チームオレンジ」の立ち上げは令和7年度に2か所増え、4か所になった。 ○認知症当事者、その家族のための講演会、教室、相談会を開催した。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.7

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】　障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	974人	1,024人	1,352人	1,434人	1,330人	1,200人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和7年度障がい者週間記念事業は、下記の4つのイベントを実施。 （1）令和7年12月6日、幅広い分野の方々に啓発を行うため、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる「ゆるスポーツ」を中心とし、「すいたCOCOROフェス」と銘打ち開催。850人が参加した。 （2）令和7年12月1日から4か月間、オンラインの集いとして、市公式ウェブサイトにて7事業所が活動紹介を収録した動画を配信。360人のYouTubeアクセス数があった。 （3）令和7年12月1日から5日は市役所正面玄関ロビーにおいて、12月6日はメイシアター1階ロビーにおいて、活動の場の紹介として、13事業者の活動状況が分かるものを展示。事業者から26人が参加した。 （4）参加者同士の交流を行いながら、地域のより良い支援体制を目指す「地域自立支援協議会」や障がい福祉の取組を考える「障がい者施策専門分科会」についても知ることができる、「最高なわたし」をテーマとしたシンポジウムを開催。94人が参加した。 ○メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚など身近な人に対して、傾聴などによる予防や早期介入できる支援者を養成するため、こころサポーター養成講座を開催。令和7年9月17日は36人、11月19日は27人、12月6日は97人が受講した。
令和8年度以降の取組予定	○障がい者週間記念事業は、継続して幅広い分野の方々に啓発を行うため、昨年度同様「ゆるスポーツ」を中心とした「すいたCOCOROフェス」を実施予定。また、障がい当事者に運営参加の協力を依頼し、啓発の充実化を図っていく。 ○こころサポーター養成講座は、障がい者相談支援センターに事業を委託している。継続して講座を開催することで、より多くの方々に受講していただき、精神疾患への偏見や差別を解消し、地域で安心して暮らせる社会の実現につなげていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	A	昨年度から参加者数は減少したが、今年度も目標値を超えた参加人数となっているので、継続して多くの方々に参加していただくよう取組を進めていく。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.8

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
成年後見制度の認知度	36%（2019年度）	実績なし	実績なし	実績なし	35%	48%

※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○本市の中核機関である「吹田市権利擁護・成年後見支援センター（通称：けんりサポートすいた）」において、令和7年度に制度やセンターの周知を目的として下記取組みを行った。 ・支援者や市民に対して出前講座を実施。（支援者向け8件、市民向け12件） ・支援者や市民に対して研修を開催。（支援者向け研修：9月4日、市民向け研修：2月25日） ・権利擁護支援を題材とした地域福祉市民フォーラムを開催。（12月17日） ・PR動画を作成し、YouTubeショートに掲載することで幅広い層に対して周知を行った。 ○一次相談窓口（地域包括支援センター、障がい者相談支援センター）と情報交換会を実施し、相談者を適切な支援につなげるうえでの課題や互いの役割について情報共有を行った。 ○「吹田市権利擁護支援に係る地域連携ネットワーク協議会」を開催し、制度の普及啓発に向けた取組の情報共有や相談事例の検討を行った。（第1回は7月1日、第2回は3月23日開催。）
令和8年度以降の取組予定	○他市中核機関との連携を目的として情報交換を行う。 ○制度の概要や専門相談・専門職派遣を周知するためにPR動画を活用して啓発を行う。 ○市民後見や受任者調整を開始するために関係室課や支援機関と連携して整備を進める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	目標値には達しなかったが、センターへの相談件数が開設当初から増加傾向にあり、制度やセンターが着実に普及されていると捉えている。 引き続き広報・啓発活動に力を入れるとともに、市民後見の養成や受任者調整といった新しい事業の整備を進め、円滑な制度利用につながる仕組みづくりに取り組む。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.9

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
日常生活自立支援事業利用者数	94人	94人	96人	107人	106人	110人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和7年度、新規契約者は11人（認知症高齢者等0人、知的障がい者等4人、精神障がい者等7人）であり、契約終了は12人（認知症高齢者等0人、知的障がい者等7人、精神障がい者等5人）であった。 ○契約終了の理由としては、「成年後見制度に移行」8人、「本人死亡」1人、「本人意思による解約」3人となっている。 ○令和8年3月末時点での待機者数は17人となっている。令和6年度末には待機者解消していたが、再び待機が発生している。
令和8年度以降の取組予定	○待機が少しでも解消できるよう、人員体制を早期に整えるなどの取組を行う。 ○引き続き「けんりサポートすいた」中核機関との連携を密にし、相談が入ったケースについて、また当事業の利用者について、成年後見制度利用の必要性はないかを検討し、より適切な制度利用につながるように努める。 ○民法改正にともなう成年後見制度の改正、身寄りのいない方に対する「新たな事業」創設の動向なども把握し、当事業が地域で果たす役割の変化に対応できるような体制などについて、関係機関とともに検討する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	今年度初めて、年間を通して100人を超える利用者を維持することができた。再び待機者が発生していることが課題である。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.10

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
地域包括支援センターの認知度	実績なし	38.0%	実績なし	実績なし	46.3%	50%（2025年度末）

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○地域包括支援センターの人材定着等のために委託料の増額等を行った。 ○地域包括支援センターは多様なニーズに対応した総合相談支援を行うため、地域の行事等のあらゆる機会を通して地域包括支援センターの周知に努めた。 ○市としても要支援要介護認定の結果通知に地域包括支援センター一覧の同封や、市が実施する事業を通して地域包括支援センターの周知に努めた。
令和8年度以降の取組予定	○令和7年度までの取組について引き続き継続する。 ○毎年度、地域包括支援センター業務実施状況の評価を実施しており、継続して全地域包括支援センターが評価基準を満たすことを目標として、センターの機能強化と安定的な業務継続を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	A	全ての地域包括支援センターが地域活動等のあらゆる機会を通じて地域包括支援センターの周知に取り組むことができた。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.11

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
吹田市社会福祉協議会の認知度	37.4%（2019年度）	実績なし	実施なし	実施なし	47.0%	60%

※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和7年度地域福祉市民フォーラムにて、吹田市社会福祉協議会と共催で地域福祉活動計画の報告や地域と持続可能なつながりをつくるための意見交換を行った。 ○令和7年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにより活動紹介を行った。
令和8年度以降の取組予定	○市報すいた（令和8年6月号）に吹田市社会福祉協議会のCSWの取り組みを紹介する記事を掲載し、活動や取組の周知を行う。 ○令和8年6月に開催する吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、活動の体験、周知をできるように取り組んでいく。 ○令和8年度中にCSW配置20周年を記念したフォーラムを開催する予定であり、CSWの活動事例を掲載した周知用リーフレット等を作成し、周知に活用する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	地域福祉フォーラムや夢のファミリーフェスタを通じて社会福祉協議会やCSWの活動内容等が記載されたチラシを配布するなど、幅広い層の方々に周知を行った。引き続き、困難を抱える世帯の相談窓口として認知されるよう機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.12

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の（延べ）相談対処回数	1,825件	2,150件	1,682件	1,419件	1,690件	2,290件

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○地域活動やボランティア活動を行う市民活動団体、支援機関と連携・協働して相談対象者の支援を行った。すぐに課題を解決できない場合であっても、相談対象者の不安に寄り添い、関係を閉ざさないよう努めた。 ○福祉委員や民生委員だけでなく住民からの相談が増加傾向にある。 ○精神障がいの方や精神疾患の疑いのある方からの相談、ひきこもりに関する相談についても増加傾向にある。CSWが伴走型の支援を行うとともに重層的支援体制整備事業による会議にも参加し、相談機関や地域の住民活動とも連携した支援に取り組んだ。 ○不登校の児童・生徒やその保護者、誰でも参加できるフリースペース「ゆるつな」を開催し、居場所の運営を行った。
令和8年度以降の取組予定	○8050問題やひきこもり等、複雑化・複合化した課題を抱えた世帯への支援が多くなっているため、課題解決への支援だけではなく、孤立させないネットワークづくりを進めていく。 ○重層的支援体制整備事業の実施に伴い、アウトリーチ等を通じた継続的支援として自発的に援助を求めようとしない要援護者などに対しても積極的な働きかけを行っていく。また、重層的支援体制整備事業による会議やCSWの相談で把握した課題を抱えた世帯に対して必要に応じて地域活動等への参加支援を行っていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	重層的支援体制整備事業の実施に伴い、CSW向けの研修を実施し、市との意見交換を行った。引き続き数値目標の達成に向け、ネットワークづくりを進めるとともに課題を抱えた人の掘り起こしや関係を閉ざさない支援を進めていく。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.13

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】　危機管理室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	25団体・277団体	29団体・295団体	30団体・297団体	32団体・300団体	32団体・304団体	34団体・324団体

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○連合自治会単位での自主防災組織については未結成が江坂大池地区連合自治会と江坂連合自治会の2箇所。（前年度から変動なし） ○単一自治会単位での自主防災組織は新たに4組結成され、令和7年度末時点で結成相談が8件ある。
令和8年度以降の取組予定	○自主防未結成の連合自治会へは個別訪問を行い、困りごと等の聞き取りをしたうえで、結成に向けたサポートを継続して行う。 ○単一自治会については、相談を受けた組織への進捗確認を電話もしくは窓口で行い、提出資料の作成サポートや、他地域の事例紹介を行う。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	連合自治会単位の自主防災組織は、残り2か所と目標到達まであとわずかである。また、単一自治会単位の自主防災組織については、結成数と相談件数を踏まえると、概ね進んでいるものと評価できる。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.14

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	6地区	11地区	12地区	13地区	13地区	34地区

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○災害時要援護者支援に関する協定締結に向け、協定未締結地区である地区と継続的に体制構築に向けて協議を行った。 ○災害時要援護者支援に関する出前講座などにおいて、災害時要援護者名簿や個別避難計画に関する取組を説明し理解促進に努めた。 ○災害時要援護者への支援活動に関して、個人情報の保護を図りつつ、効果的に取組を進めていく必要がある。
令和8年度以降の取組予定	○災害時要援護者支援に関する協定締結に向け、協定未締結地区と協議等を行う。 ○災害時要援護者支援に関する理解促進を図り、地域における顔の見える関係や支援体制づくりに向けて引き続き取り組む。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	協定締結に向けた地区との協議や出前講座の実施等により、災害時要援護者支援に関する理解促進等ができた。 災害時要援護者への支援活動について、個人情報の保護を図りつつ、効果的な取組となるよう、理解を得ながら進めていく必要がある。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.15

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
民生委員・児童委員の人数	498人	500人	508人	504人	490人	551人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	令和7年度は3年に一度の一斉改選があったため、新たに委嘱された委員よりも定年等で退任した委員の人数が上回ったことにより、実績値が大きく減少した。 民生委員・児童委員の担い手確保のため、民生委員・児童委員活動のPR（認知度向上）と活動環境の改善のため以下の内容に取り組んだ。 ○夢のファミリーフェスタを開催し、吹田市民生・児童委員協議会（以下、「協議会」という。）のPR活動などを実施した。 ○全地区にて学校長との懇談を行い各学校等の子供たちの様子や抱える課題について共有した。 ○民生委員・児童委員をPRするために、夢のファミリーフェスタ等の協議会が主催するイベントの際に、PRウエットティッシュを配布した。 ○協議会の効率的な運営や活動の負担軽減を図るため、令和6年度に引き続き、地区委員長及び主任児童委員にタブレット端末を配布し、オンライン会議等の導入やLINEWORKSによる業務連絡や会議資料の共有を行った。また広報部会員へのLINEWORKSアカウントの付与やLINEWORKSを活用した社会福祉協議会に配置されているコミュニティソーシャルワーカー（CSW）との連携を進め協議会のICT化を推進した。 ○民生委員・児童委員が行う各種証明事務について依頼元の関係室課と調整し、負担軽減を図った。 ○協議会のホームページ内に各地区活動紹介ページを新たに作成し、各地区での取り組み内容を掲載することで市民向けに情報発信を行った。
令和8年度以降の取組予定	○令和7年度に引き続き、夢のファミリーフェスタ等の協議会が主催するイベントの際に、PRウエットティッシュを配布して啓発に取り組む。 ○協議会の効率的な運営や活動の負担軽減を図るため、民生委員・児童委員の活動記録の提出について、ICTを活用できるよう検討を進める。 ○協議会のホームページ内の各地区活動紹介ページの掲載内容を充実させ、地域住民に自分が活動している姿を想像できるようなPRに努める。また、特に若い世代に民生委員・児童委員をPRするために、「大学生の民生委員体験ボランティア」を募集し、実際の民生委員・児童委員活動を通したPRに努める。 ○担い手確保のため、ICT化の推進に加え、他市での好事例等も参考にしながら民生委員・児童委員の新たな担い手確保策について検討を進める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	民生委員・児童委員の人数は減少したが、市と協議会が連携し、活動環境の整備や協議会ホームページでのPRなど、担い手確保に向けた取り組みを進めることができた。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.16

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
単位高齢クラブ数	205クラブ	185クラブ	177クラブ	171クラブ	156クラブ	実績値の水準を維持

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○市内の各地区で活動する単位高齢クラブをもって吹田市高齢クラブ連合会を組織しており、各クラブ活動を強化し、明るく楽しい生活を送ることができるよう、高齢者の福祉を推進している。 ○団塊の世代が全て75歳以上となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年、65歳以上人口のピークを迎える2050年を見据え、超高齢社会の地域のコミュニティ・見守り隊・外出支援の担い手・介護予防の推進活動隊として、高齢クラブが果たす役割は重要となっていくが、会員数が減少傾向にあり、会員数拡大が課題となっている。
令和8年度以降の取組予定	○引き続き、高齢クラブの活動実態や高齢者のニーズを把握し、高齢クラブへの加入・参加を促し、高齢クラブ活動の活性化を図る。 ○高齢クラブの維持・活性化に取り組んでいる吹田市高齢クラブ連合会と連絡を密に取り、会員数を増加するための施策を検討する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	C	C	高齢クラブでは、就労年齢の高齢化による高齢者のライフスタイルの変化、地域との関わりの希薄化、単位クラブの会長の成り手不足等の原因により、会員数の減少やクラブの解散が続いており、当年度も同様であった。 今後も高齢クラブ連合会と連携し、PR活動を通して高齢クラブの良さを知っていただく機会を提供し、新規会員の加入に向けた取組への支援を進めていく。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.17

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】　福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	15.5%（2019年度）	実績なし	実績なし	実績なし	11.50%	30%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和7年度地域福祉市民フォーラムにて、吹田市社会福祉協議会と共催で地域福祉活動計画の報告や地域と持続可能なつながりをつくるための意見交換を行った。 ○令和7年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにより活動紹介を行った。 ○重層的支援体制整備事業を様々な支援機関に説明する際に、吹田市社会福祉協議会の役割や取組を説明し、周知した。
令和8年度以降の取組予定	○市報すいた（令和8年6月号）に吹田市社会福祉協議会のCSWの取り組みを紹介する記事を掲載し、活動や制度の周知を行う。 ○令和8年6月に開催する吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、活動の体験、周知をできるように取り組んでいく。 ○令和8年度中にCSW配置20周年を記念したフォーラムを開催する予定であり、CSWの活動事例を掲載した周知用リーフレット等を作成し、周知に活用する。 ○今後も重層的支援体制整備事業の説明に併せて吹田市社会福祉協議会の取組を紹介し、周知に努める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	地域福祉フォーラムや夢のファミリーフェスタを通じて社会福祉協議会やCSWの活動内容等が記載されたチラシを配布するなど、幅広い層の方々に周知を行った。引き続き、困難を抱える世帯の相談窓口として認知されるよう機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.18

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
ふれあい交流サロン設置数	6か所	11か所	12か所	12か所	12か所	12か所

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和6年度末に閉所したサロンがあったものの、令和7年度に新規運営団体の募集を行い、令和7年度末時点で、目標値である12か所設置している。
令和8年度以降の取組予定	○設置目標数値（12カ所）を達成することができたため、今後も、円滑な運営を行えるよう、引き続き支援し、介護予防の取組を実施するよう、引き続き働きかけを行う。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	A	令和7年度は、目標値の12か所設置を達成した。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.19

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】　青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
こどもプラザ事業実施回数	1,992回	1,805回	1,869回	2,154回	2,231回	2,400回

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○本事業は、学校及び地域の方々の協力を得て実施している。 ○「太陽の広場」では、担い手の高年齢化などによりボランティアが不足する課題が顕著になっているため、今後も持続可能な事業として取り組むべく、令和6年度から令和7年度まで2校で民間委託をモデル事業として実施した。 ○「地域の学校」では、地域のボランティアの協力を得て体験活動を実施した。 ○両事業とも地域の担い手不足が喫緊の課題であるため、確保策の検討が必要と考える。
令和8年度以降の取組予定	○地域の方がボランティア活動に関わりやすくするために、地域の負担を軽減し、持続可能な事業とするための取組を進める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	実施回数に地域差はあるものの、総事業実施回数は、増加傾向にあるため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.20

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】　総合福祉会館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	3,665件	2,182件	2,679件	2,879件	3,144件	4,190件

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和5年度に新型コロナウイルス感染症による収容人数等の制限を解除したが、貸室提供を行う登録団体が減少した。これはコロナ期に、リモートによる活動、他の場所へ拠点移転、さらには団体の高齢化等から活動を行わなくなったことが原因と思われる。 ○令和6年度は集会室を執務スペースから本来の貸室へ戻したが、先述した理由で使用件数は微増に留まった。 ○令和7年度も使用件数は緩やかな増加となった。
令和8年度以降の取組予定	○利用者の利便性向上を図るべく、設備の更新・貸出備品の改善、予約手続の簡素化を検討する。 ○将来の大規模修繕を見据え、利用団体等からの意見を参考に利用状況を分析のうえ、ニーズに見合った改修計画を策定、実行する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	貸館の稼働率は増加しているものの、想定より伸び悩んだため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.21

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
地域密着型サービスの整備箇所数 ①小規模多機能型居宅介護 ②看護小規模多機能型居宅介護 ③定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ④認知症高齢者グループホーム ⑤小規模特別養護老人ホーム	①8か所 ②1か所 ③2か所 ④17か所 ⑤6か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②3か所 ③4か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②2か所 ③4か所 ④19か所 ⑤10か所	①9か所 ②3か所 ③4か所 ④22か所 ⑤10か所

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○第8期吹田健やか年輪プランに基づき、令和3年度から令和5年度までの間に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所、認知症高齢者グループホーム2か所、小規模特別養護老人ホーム2か所及び小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定した。 ○第9期吹田健やか年輪プランに基づき、令和6年度に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所、認知症高齢者グループホーム1か所及び看護小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定した。整備に係る事前協議期間中に、事業者から辞退の申し出があり、再度、整備事業者の選定が必要になった。 ○認知症高齢者グループホーム（1ユニット）1か所が令和5年度末で廃止となったことに伴い、第9期吹田健やか年輪プランで定める必要利用定員総数を満たすために令和6年度及び令和7年度に公募を実施したが、応募がなく整備事業者を選定できなかった。また、認知症高齢者グループホーム（1ユニット）1か所が令和7年度に廃止となったため、前述の廃止分と合わせて整備事業者を選定する必要がある。
令和8年度以降の取組予定	○第9期吹田健やか年輪プランで定めた地域密着型サービスの必要数を整備するため、認知症高齢者グループホーム（39床）及び看護小規模多機能型居宅介護1か所を令和8年度に公募する。 ○令和10年度からの第10期吹田健やか年輪プランを策定するにあたり、これまでの要支援・要介護認定者の認定率や介護サービスの利用状況等をもとに介護サービス見込量を推計し、地域密着型サービスの整備の必要性を検討する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	C	第9期吹田健やか年輪プランで定めた地域密着型サービスの必要整備数について、整備事業者が選定できておらず整備時期が未定であるため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.22

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
障がい福祉サービスの利用者数等 ①ホームヘルプなど訪問系サービスの利用者数（月平均） ②グループホームの利用者数（月平均） ③移動支援事業の利用者数（月平均） ④就労継続支援B型事業所における工賃平均月額	①1,089人 ②355人 ③1,078人 ④13,113円	①1,548人 ②468人 ③983人 ④15,422円	①1,641人 ②535人 ③1,005人 ④20,145円	①1,787人 ②582人 ③1,022人 ④20,914円	①1,879人 ②612人 ③1,021人 ④現時点では不明。	①1,863人 ②575人 ③1,181人 ④17,219円

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○訪問系サービスの利用者数は年々増加傾向にあるが、支援者の人材確保については深刻な課題がある状況が続いている。福祉人材の確保のため、楽しみながら福祉に触れる謎解きイベントやボードゲームの開発、市報の特集や、動画作成を行い、障がい福祉分野におけるしごとの魅力発信を行った。 　また、障がい特性に係る課題への対応のため、精神障害者居宅介護受入れ事業補助金や強度行動障害受入れ事業補助金といった、受入れ促進補助金を創設した。
令和8年度以降の取組予定	○令和8年度に策定する次期計画のためのアンケートや事業所ヒアリング等を踏まえ、課題やニーズ分析を行い、実効性のある計画を策定し、事業所が継続して安定した障がい福祉サービスを提供できるよう、引き続き状況に応じて連携し、必要なサポートを実施する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	事業所が安定して障がい福祉サービスを提供できた結果、訪問系サービス、グループホーム利用者については、目標を達成したが、移動支援事業の利用者数は、昨年度から減少した。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.23

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　放課後子ども育成室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
留守家庭児童育成室入室児童数	3,506人	4,688人	4,962人	5,395人	5,907人	5,000人

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○令和7年度の運営状況については、育成室の入室希望児童が大幅に増加している状況を踏まえ、小学校の協力を得ながら必要な施設の確保を進めた。また、指導員の欠員を解消するため、複数回の採用試験の実施や人材派遣サービス活用等により指導員の確保を行うとともに、あらたに4育成室の運営委託を開始した。 ○また、特に入室児童の増加が見込まれ、教室確保に課題がある地域において、私立幼稚園、認定こども園による民設の放課後児童クラブ（留守家庭児童育成室）の設置を目指し、1つの施設で令和8年度から事業開始することができた。 ○これまで対策が限定的であった、委託育成室指導員の賃金改善支援のため、あらたに国府の交付金を活用した事業の実施を目指し、令和8年度から開始することができた。 入室申請者数：5,911人　入室児童数　：5,907人 待機児童数：4人（令和8年3月時点：0人）
令和8年度以降の取組予定	○今後も利用希望児童数の増加が見込まれ、これまでの対策では、児童の受入れに限界がきている。持続可能な事業とするためには、様々な対策を複合的に実施していくことが必要なことから、対応検討プランにより、5か年を目途とした対応策を整理し、対応を進めていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	A	児童数の増加と指導員不足、教室の不足により令和7年4月時点で入室申請者数は5,911人、入室児童数は5,907人で、4人の待機児童が生じた。 待機児童については、令和7年9月1日時点で解消した。 目標（入室児童数）を達成し、児童に対して放課後の安心・安全な居場所を提供できた。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.24

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　健康まちづくり室

1　評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
生活習慣改善するつもりはない人の割合	男性28.8% 女性21.5%	男性：28.4% 女性：20.4%	男性：27.4% 女性：20.4%	男性：28.1% 女性：20.3%	男性：27.4% 女性：19.0%	男性25.0% 女性17.0%

2　取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○指定管理者による健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの一体的な管理運営を通して、多様な健康づくりプログラム等を年間1,236回提供した。 ○食習慣の改善を促すため、「食を選択する場」としてスーパーでの啓発や、試食による「体験を伴う場」として小学校給食試食会での講話等を実施した。 ○健康すいた21（第3次）の評価および健康すいた21（第4次）の策定に向け、「健康に関する市民意識アンケート調査」を実施し、現状の把握と課題の抽出を行った。 ○親子健康応援アプリ「すいろぐ」の利用者アンケートを実施し、保護者のニーズに沿った情報を配信項目に追加する等、サービス向上を図った。 ○市内の大学と連携し、イントラネットを活用した健康情報の発信を年間15回行った。
令和8年度以降の取組予定	○健康すいた21（第4次）を策定し、健康づくりに取り組むまちづくりを推進する。 ○引き続き大学等の関係機関と連携し、健康情報の啓発を継続して行う。

3　評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	評価指標は目標値には達しなかったが、経年で見ると男女どちらも改善傾向にあり、目標達成に向けた取組は着実に進んでいると考える。 目標達成のため、引き続き健康情報の啓発を行うとともに、昨今の社会情勢に沿った健康増進計画の策定・推進により、市民の健康づくりを推進する。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.25

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　学校教育室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	8,469時間	15,219時間	15,147時間	15,783時間	15,957時間	15,738時間

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○全18中学校ブロック（小学校2校・中学校1校が15ブロック、小学校1校・中学校1校が2ブロック、小学校3校・中学校1校が1ブロック）に週20時間を基本としてSSW（スクールソーシャルワーカー）を配置し、いじめや不登校、虐待等の課題に対して福祉の専門家として関わり、各校で週1回開催されるコア会議や生徒指導委員会、必要に応じた個別のケース会議等に参画し、いじめや不登校、虐待等の対応に関する助言や環境への働きかけ、関係機関との連携・ネットワークの構築等、多様な支援を行った。 ○SSW連絡会を毎月1回開催し、学校外支援機関との連携強化と、より実効性のある事例検討・研修の機会を確保し、各SSWのスキル向上を図った。 ○諸課題を有する児童・生徒への適切な支援を実施することができたが複雑化・複合化する課題に対してタイムリーな対応が困難であるため、そうした課題に対してSSWが迅速に対応していくための組織的な体制づくりを進める必要がある。
令和8年度以降の取組予定	○SSW連絡会を引き続き毎月1回開催し、学校外支援機関との関係性強化と、より実効性のある事例検討・研修の機会とする。 ○経験の浅いSSWへのサポート体制を強化し、SSWSVやチーフSSWによる個別支援を充実させる。 ○複雑化・複合化する課題に対して、児童・生徒の適切なアセスメントができるようにケース会議等の充実を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	支援による好転率は小中学校合わせ、約72％と微減ではあるが、事案の複雑化・複合化が進む中で、学校現場等からのニーズは高い水準を維持し、SSWが介入している件数自体は年々増加している状況から、評価は「概ね進んでいる」とした。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.26

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　道路室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
移動経路のバリアフリー化率（整備済延長/全延長×100）	52.90%	90.80%	91.90%	93.40%	96.50%	100%

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○市域において、バリアフリー法等に基づき、バリアフリー基本構想が策定され、高齢者、障がい者等の移動等の円滑化を推進しています。整備内容は、歩道及び車道等との段差・勾配の解消、バリアフリーに配慮した路面舗装、視覚障がい者誘導用タイルの設置等を行います。 ○令和7年度は片山町31号線の整備を実施しました。
令和8年度以降の取組予定	○今後、新たなバリアフリー基本構想が策定される予定で、その基本構想で経路に指定される路線のバリアフリー整備を実施していきます。 ○令和8年度は、新たな経路に指定される路線について、整備内容等の検討をします。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	B	B	大阪府の事業や開発事業の影響で整備時期が未定の路線がありますが、それ以外の路線については、令和7年度で整備が完了しました。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.27

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
JOBナビすいたの利用者数	5,050人	3,134人	3,587人	3,749人	3,530人	実績値の水準を維持

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○就労に向けて様々な阻害要因のある方の状況に寄り添いながら支援を継続している。 ○今後も引き続き、求職者のニーズ把握に努め、より効果的なセミナーや講座、面接会などを実施する。
令和8年度以降の取組予定	○求職者の状況は多様化していることから、個々に最適な就労支援を提供できるよう、関係部局とも連携を深め、きめ細やかな対応を実施していく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	前年度比で利用者数は減少したものの、求職者ひとり一人の状況に応じた就労支援を提供した。また、求職者のニーズを合わせたセミナーや講座を開催した。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート　No.28

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】　地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度（平成30年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	2026年度（令和8年度）
「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	75人	32人	16人	37人	19人	実績値の水準を維持

2 取組の進捗状況

令和7年度末までの取組状況（進捗、成果、課題等）	○ハローワーク淀川及び吹田商工会議所と連携し、「障がい者就職応援フェアInすいた」を開催した。 ○参加企業数が例年より減ったことで、参加者数も減少した。
令和8年度以降の取組予定	○令和8年度は10月か11月に開催予定。 ○ハローワーク淀川及び吹田商工会議所と連携を深め、まずは参加企業数の増加を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる　B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない　D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）	評価の理由等
評価	A	B	令和6年度より参加企業が減ったことで参加者数の減少につながった。引き続き、参加企業及び参加者の増加に向けて実施内容等を検討していく。